

Pelvic tilt and movement during total hip arthroplasty in the lateral decubitus position

金沢, 正幸

<https://hdl.handle.net/2324/1806916>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：金沢 正幸

論 文 名：Pelvic tilt and movement during total hip arthroplasty in the lateral decubitus position

(人工股関節置換術時の側臥位における骨盤回旋とその変化)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

目的：人工股関節全置換術(THA)は側臥位で行われることが多い。この体位によって生じる3次元的な骨盤回旋は、カップの設置位置不良を来すひとつの因子である。本研究では側臥位での骨盤回旋及び、術中に生じる骨盤回旋の変化を3次元的に定量化した。

方法：初回 THA95 例を対象とした。側臥位に術直前及び、術中カップ設置後の骨盤正面 X 線像を CT データから再構築した画像に重ね合わせることで骨盤回旋を定量化した。手術時、両上前腸骨棘と仙骨後方を圧迫する骨盤固定器を用いて骨盤を固定した。

結果：骨盤は側臥位において様々な回旋を生じていた。各平面での回旋は矢状面： -3.1° ($-25.5^{\circ}\sim 10.2^{\circ}$)、横断面： 3.9° ($-8.4^{\circ}\sim 17^{\circ}$)、冠状面： 0.9° ($-11.9^{\circ}\sim 13.2^{\circ}$)であった。 5° 以上の回旋変化は、矢状面で43%、横断面で47%、冠状面で12%の症例に生じていた。仰臥位での矢状面骨盤後傾が大きいほど、側臥位でも骨盤はさらに後傾した。術中生じる骨盤回旋変化は各平面とも約 3° 回旋しており、その範囲は -11° から 20° と広範囲であった。

結論：本研究では THA に伴う骨盤回旋を3次元的に明らかにした。その変化はカップの設置角度に影響するため、正確に把握すべきである。又、より優れた骨盤固定法が望まれる。